

姫路城跡中曲輪施設整備方針（素案）に関する市民意見（パブリック・コメント）の募集結果

1 市民意見の提出状況

- (1) 案 件 名：姫路城跡中曲輪施設整備方針（素案）
- (2) 意見募集期間：平成27年6月1日（月）～ 6月30日（火）
- (3) 意見提出件数：42通 142件

2 市民意見の結果公表に当たって

姫路城跡中曲輪施設整備方針（素案）への市民意見を募集しましたところ、多くの方々から貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。結果公表に当たりまして、提出されたご意見の内容を以下の通り分類し、整理しています。

姫路城跡中曲輪施設整備方針（素案）	項 目	素 案	件 数
	1 整備方針検討の目的	1 頁	4 件
	2 整備方針等の位置付け	2・3 頁	1 件
	3 検討の前提となる規制	4~10 頁	0 件
	4 姫路城周辺の現状	11~13 頁	0 件
	5 検討に当たっての視点	14~16 頁	1 件
	6 現状の課題	17・18 頁	5 件
	7 求められる施設機能	20~22 頁	5 1 件
	8 姫路城ミュージアムの候補地	24~29 頁	3 1 件
	9 施設配置上の課題への対応	30 頁	3 件
	10 施設整備の方針	34~40 頁	3 8 件
	11 その他		8 件
	合 計		1 4 2 件

1 整備方針検討の目的

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
1	整備方針検討の目的	全国に通用する文化観光拠点施設の整備は、都市機能の充実に大きく貢献するものとする。	4	姫路城や姫路城周辺の地域は、「都市としての姫路を象徴する場所」「歴史・文化との共生を体現する場所」「今後の姫路のまちづくりを方向づける場所」であり、姫路という都市全体の“活力と格”の向上を図る“力と可能性”を秘めた特別な場所だと考えています。当素案に示した目的に沿いながら、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、具現化してまいります。

2 整備方針等の位置付け

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
2	(4) 中曲輪における整備の方針	歴史文化の学習及び啓発を促す施設の整備は、観光拠点施設には欠かせないものである。	1	平成23年3月に策定した「特別史跡姫路城跡整備基本計画」(以下、「H23.3 特別史跡整備基本計画」という。)において、中曲輪は遺構表示等を行いつつ、教育・学習機能を有する施設整備と賑わいの創出に繋がる施設整備について検討の必要性を示しており、当素案の整備方針等の位置付けの基本となっています。

5 検討に当たっての視点

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
3	(3) 活かすべき外部環境の変化	近年城郭や歴史への関心が高まり、歴史や城郭関連番組が増え、城下町を訪れる観光客が増加傾向にあることから、「城・歴史ブームの高まり」を項目に加えてはどうか。	1	ここでは、地方行政を取り巻く社会情勢や施策の展開から生じる変化、或いは、本市ならではの特色を踏まえた外部環境の変化について示しています。

6 現状の課題

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
4	(1) 姫路城の本質的価値を構成する諸要素の保存と活用	保存のみでなく、東御屋敷跡や埋門の復元、中濠の一部復元等により、中曲輪周辺に見所を増やすことが必要では。	1	「H23.3 特別史跡整備基本計画」において、中曲輪は特別史跡を保存しつつ、その価値を高めるための整備を推進する区域とし、土塁、堀など現存する遺構を保存し、失われた遺構やかつて武家屋敷地であった城下町の街路や屋敷割りなどの地下遺構は、表示等による顕在化を図ることとしています。

5	(2) 文化観光の推進	姫路城の南西部には埋門跡、中濠、千姫の小径、船場川、龍野町、船場本徳寺等の遺構・史跡が集中しており、回遊できる環境の整備が必要では。	1	回遊ルートの開発やビューポイント案内、ガイドの多言語化など、多様な回遊性の創出について検討してまいります。
6	(3) 公共公益施設の効率的な運営と機能の向上	北東方向への回遊性を高める上で、姫路城と市立美術館の連携は不可欠である。美術品収集は西洋の美術品の収集から酒井抱一など江戸時代の姫路ゆかりの作品の収集に重点を置くことが必要では。	1	回遊性を高めるため、姫路城周辺の文化施設等とも連携を図りたいと考えています。また、市立美術館の収集方針は、郷土ゆかりの美術家の優れた作品及び郷土の歴史・風物等に関する美術作品、日本の近代・現代美術作品、ベルギーなど海外の近代・現代美術作品と幅広く、日本画、油彩、彫刻、工芸(東山焼・刀剣)など多彩なジャンルの作品を網羅しており、酒井家など郷土ゆかりの作品の収集にも努めているところです。
7	(4) 駐車施設の再編	大手門駐車場は、姫路城に最も近く、広いことから現状のまま残し、不足分は城見台臨時駐車場の常設化等で対応すべきである。利便性の良い駐車場は1か所での運用が効率的であり、分割した代替を本町駐車場等に求めるのは、来訪者にとって不便となり、運用等も複雑になると思う。	1	大手門駐車場に新たに整備しようとする施設には、城郭博物館機能や郷土歴史博物館機能とともに、ビジターセンターとしての機能を持たせようと考えています。内曲輪への玄関口である桜門橋や好古園、家老屋敷跡公園等に近接した利便性とともに、半減する大手門駐車場の代替として常設化する本町臨時駐車場からは、来訪者が姫路城に向かう動線上に位置するものと考えています。
8		課題図は分かりやすく表現されているが、中曲輪とその周辺との回遊も図示されるとよい。	1	当素案は中曲輪の施設整備方針の検討が主目的であることから、中曲輪の既存施設等との回遊を示したものとなっています。

7 求められる施設機能

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
9	(2) 求められる施設機能の整理	情報発信機能は必要ではあるが、訪問者の動線を考えると、まず、駅前に観光案内等をつくるべきではないか。駅前と『(仮称)世界遺産・姫路城ミュージアム(以下「姫路城ミュージアム」という。)』との役割分担や連携などを分析し、より一層の来訪者の利便性向上を望む。	1	JR姫路駅中央コンコース西側に設置する姫路市観光案内所(愛称:姫路観光なびポート)では、主に鉄道利用の来訪者に対して観光・宿泊案内、観光レンタサイクルの受付等を行っています。アンケート調査では、来訪者の62.6%が鉄道利用、33.9%が自家用車利用となっており、姫路城周辺に直接、自家用車等で来訪する方には十分な観光案内ができていないことから、姫路城をはじめ、周辺の名所・旧跡の案内等を行い、回遊性の誘発と滞在時間の延長に繋がりたいと考えています。

10	江戸期以前のほか、明治以降の歴史や近代の姫路観光の歴史をも伝える総合博物館とし、国内有数のユネスコ世界遺産紹介施設の機能を兼ね備えることを望む。	1	「姫路城の本質的価値を高め・学び・伝える」施設として、城郭や郷土史に関する展示・学習機能を持たせます。また、国宝姫路城は平成5年12月、奈良の法隆寺とともに、日本で初の世界文化遺産に登録されており、当該施設では世界遺産が持つ価値や保存・継承の意義についても啓発していきたいと考えています。
11	姫路城のゲートの位置づけとし、好古園と同様、入城料とセットした料金設定とし、観光客の滞在時間を増やしてはどうか。	1	新たに整備しようとする施設の機能には、来訪者が姫路城に関する知識を得た後、実際に登閣し、より興味深く見学していただけることを考えており、滞在時間の延長にも繋がる共通券(セット料金)の設定については、今後検討してまいります。
12	屋内や敷地(芝生等)から、くつろいで城を眺望できるスペースを設け、心ゆくまで姫路城を堪能してもらう施設を望む。	1	新たに整備しようとする施設には、眺望スペース等の設置についても検討していきたいと考えています。
13	江戸期の姿に近づけるため、内曲輪内の石碑類もできるだけ施設敷地に移設し、特に中村大佐顕彰碑を施設のシンボルとしてはどうか。	1	「H23.3 特別史跡整備基本計画」において、既存の記念碑は、本質的価値を構成する諸要素に対して悪影響を及ぼさないよう屋内等へ移転・集約し、新設は原則行わないこととしており、今後も引き続き研究してまいります。
14	日本城郭研究センターや県立歴史博物館との役割分担を明確にすることを望む。	1	日本城郭研究センターは、近世城郭の専門的調査・研究機能を強化し、現在収蔵している資料等は、新たに整備しようとする施設において、広く来訪者に展示するなど、役割分担を図ることとしています。なお、県立歴史博物館については、城郭関連展示のあり方等について調整を図ってまいりたいと考えています。
15	城郭建造物と埋蔵文化財群の偉大さに比べて、城が武士や町人の生活と結びつかない物足りなさを感じていた。建造物がほとんど残っていない仙台や金沢では、武家文化や町民文化が継承され、都市のイメージまで形成している。姫路城の存在が武家文化や町民文化にもたらしたもの、現在に継承されているものを学べる施設を望む。	1	新たな導入が求められる施設は、「姫路城の本質的価値を高め・学び・伝える」ことを主たる施設機能としています。姫路城や城下町に関する展示・学習や文化財の保存継承意義の普及・啓発など、城郭に関連する展示・学習機能に加え、姫路の歴史や文化など、郷土史に関連する展示・学習機能を併せ持つ施設にしたいと考えています。具体的な展示内容、展示方法、意匠デザイン、運営方法などにつきましては、当素案で示した方針に基づきながら、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、検討してまいります。
16	天守閣、櫓、渡櫓等の建造物は多数残されているが、城主や家臣の政治や生活の様子が想像できない。三の丸向屋敷、東御屋敷、御居城、西御屋敷、本丸御殿(備前丸)等、更には中濠以内の様子を絵図等をもとにCGで再現し、よりダイナミックな姫路城が想像できるようにしてはどうか。	1	

17	江戸時代の生活・文化・風俗を実体感できる工夫を望む。タイムトリップ・ビューを活用し、風景や日常を可視化するほか、藩校、寺子屋などを教育の場に活用できたらよい。	1	前頁に記載のとおり
18	姫路城、播磨地域の歴史、文化、伝統工芸などを紹介・学習する機能とともに、姫路の産業、商業の活性に繋がる展示物の準備、施設運営が必要である。	1	
19	天守閣と江戸城、城造りの名手黒田官兵衛、白壁、城博士集合など、興味を引くことをテーマにしなが、展示内容は日本のどこにもない切り口とし、城について調べようと思う人が必ず訪れるものにする。建物形状のイメージは、平等院ミュージアム鳳翔館、京都国立博物館のような、過去と現代の調和を図ったものがイメージされる。	1	
20	郷土史の要素に姫路の祭りを加えて欲しい。灘祭り、提灯祭り等、かつて姫路藩ではない地域の祭りも含めて、その原形は江戸時代から記録が残されていると聞く。江戸時代の人々の暮らしと祭りを組み合わせれば、より郷土史が豊かに表現できるのではと考える。	1	城郭に関連するものに加え、姫路の歴史や文化など、郷土史に関連する展示・学習機能を併せ持つ施設にしたいと考えています。祭り文化・屋台文化については、郷土史関連の項目の一つに含まれるものと考えますが、具体的な展示内容、展示方法等につきましては、当素案で示した方針に基づきながら、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、検討してまいります。
21	日本城郭研究センターや県立歴史博物館を大手門駐車場に移転し、城郭専門の博物館を建設するとともに、屋台関係の展示も姫路文化の一端として併設してはどうか。	1	
22	観光客を呼び込むため、播州祭文化の常設コーナーを姫路城周辺に設け、姫路の歴史や文化など、魅力の発信拠点があってもよい。屋台の練合せや獅子舞の演舞など、観光アイテムとして色々な展開が考えられる。県・市指定民俗文化財の多くが、播州の秋祭りに関するものであり、展示・学習する施設の側面からも検討されることを望む。	3	
23	青少年の健全育成、地域コミュニティの活性化など、豊かな社会の下支えになっている「祭り文化」の伝承・発信・教育機能の検討を望む。	1	

24		「ザ・まつり屋台 in 姫路」では、播州の祭り文化が観光振興や賑わいの創出に大きな成果を上げた。姫路城と播州の祭りの相乗効果による文化観光の拡大に期待し、2大テーマとした姫路城ミュージアムの建設を望む。	2	<div data-bbox="1496 587 2018 719" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>前頁に記載のとおり</p> </div>
25		郷土史を語る上で姫路の祭り文化は欠かせない要素である。姫路藩との関わりを整理するなど、祭りを担う者にもより愛着と誇りを持てるよう、祭り文化のコーナー設置を望む。	1	
26		姫路の魅力は、播磨風土記の昔より続く古い歴史と伝統、書写山をはじめとする歴史的建造物、雪彦山や家島の海に代表される自然環境、黒田官兵衛をはじめ、歴史上の人物など多くの魅力がある。施設には是非、播磨を代表する祭屋台文化も紹介し、3D映像を駆使した臨場感のあるシアターを併設するなど、魅力的に伝えて欲しい。	1	
27		<p>姫路城ミュージアムに、相当規模を有する「播州屋台会館(仮称)」を内设・併設して欲しい。</p> <p>※播州屋台会館(仮称)</p> <p>平成15年10月7日、屋台文化保存連絡会が青年会議所と連名で市長に対し109,442名の署名を添え「『播州屋台会館(仮称)』早期建設 提案書」を提出。①播州固有文化に常に触れることを通じて、地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設 ②播州固有文化を常に情報発信出来る施設 ③播州固有文化の保存・研究・継承の施設をコンセプトに掲げる。(屋台・檀尻の実物展示、目・耳・身体で祭りを感ずる体験型展示、青少年の健全育成を視野に入れた播州彫刻を始めとする鋳金具、幕、高欄掛、刺繍等固有文化の保存・継承展示及び実演展示など)</p>	20	

28		<p>「巧の結晶」とも称される祭り屋台や檀尻などは、県立歴史博物館や書写の里・美術工芸館、JR姫路駅に分散展示されている。展示可能な施設がないため、新調される度に一体物としての価値が散逸するリスクを持っている。屋台の練り出しを伴う祭りは江戸時代から斎行されたものの、歴史的には姫路城下の祭りではなく、姫路城との直接的関係は薄いものがあるが、屋台文化を体験的に展示・展開できる施設があれば、来訪者に与えるインパクトは大きく、文化観光の情報発信に大きな役割を果たし、リピーターの増加にも繋がる。関連品の展示・寄託にも協力可能であり、一か所に集約した相当規模の屋台会館的施設の内設・併設を望む。</p>	4	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>前頁に記載のとおり</p> </div>
29		<p>姫路城ミュージアムに現役屋台を展示し、「ザ・まつり屋台 in 姫路」などの開催時に入れ替えイベントなどを企画し、匠の技を全国に発信出来る施設の内設を望む。</p>	1	
30		<p>姫路城は秀吉が天下人になる礎を築いた城と言え、先の大河ドラマでは軍師黒田官兵衛の魅力を全国に発信できた。姫路城ミュージアムに、「黒田官兵衛記念館」をつくり、官兵衛の業績、ゆかりの品、ゆかりの地等を詳しく紹介することは魅力の発信を受け継ぎ、大きな見所になるものと考え。</p>	1	<p>黒田官兵衛など姫路ゆかりの人物については、城郭関連や郷土史に関連する展示・学習項目の一つに含まれるものと考えます。</p>
31		<p>国宝級が展示可能な施設とするとともに、館独自の収藏品収集が重要となる。姫路城の場合は、福岡市博物館の黒田家資料、米沢市博物館の上杉家資料等と比べて質・量ともに大差がある。文化財の収集には時間がかかることから、収藏品の収集活動にも精力的に取り組まれない。</p>	1	<p>国宝級の展示物や独自の収藏品収集も視野に、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、検討してまいります。</p>
32	(3) 施設機能導入の考え方	<p>施設の基本理念を「世界文化遺産・姫路城に相応しい内容と規模を持った博物館」とし、姫路城と対等の立場に位置づける。具体的には、城郭と姫路城のことが何でも分かる博物館、博物館の展示物を見るためだけに訪れたい博物館、姫路が世界に誇れる設備・規模を持った博物館とする。また、敷地面積は少なくとも仙台市博物館の 15,000 m²、将来計画を含めれば 30,000 m²程度(福岡市博物館約 30,000 m²、安土城</p>	1	<p>世界文化遺産に登録された国宝姫路城の本質的価値を高め・学び・伝えることを主たる施設機能としており、他都市の城郭系博物館との差別化も視野に、展示内容、展示方法、施設の設備・規模等につきましては、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、検討してまいります。</p>

		考古博物館 67,000 m ² 余り)、場所の選定は、規模・機能・所要敷地面積を勘案し、現時点では敷地の余裕や拡張の余地から選定し、計画に自由度を持たせておくことが適切である。		前頁に記載のとおり
33		所蔵品の充実を図るため、機能強化を求める施設に埋蔵文化財センターを加え、東御屋敷跡など内曲輪の発掘作業を進めて遺構を明らかにするとともに、出土品の整理・復元・展示機能を強化すべきである。	1	埋蔵文化財センターについては、発掘調査や城跡関係遺物の活用展示等について連携を図ってまいります。
34		回遊性機能に遺構・史跡の整備を加え、また、現状の公営駐車場は残しながら、駐車場相互の一体運用を促進し、来訪者の利便性向上と周辺駐車場の活用の両立を図るべきである。	1	地下遺構の表示等にも努め、回遊基盤の更なる充実を図りたいと考えています。また、低未利用地の有効活用の観点からも、駐車場の再編・整備を進めたいと考えています。

8 姫路城ミュージアムの候補地

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
35	(1) 候補地の抽出	姫路警察署跡地、県営本町住宅跡地、大手門駐車場の3か所の選定は適切である。	1	低未利用地として臨時的に駐車場として使用している姫路警察署跡地及び県営本町住宅跡地、並びに、立地条件を活かした土地利用の観点から大手門駐車場を候補地として選定したものです。
36	(2) 候補地の条件整理	姫路警察署跡地は幹線道路の交差点にあり自動車アクセスに優れるとの記述は、駐車場として見た場合であり、候補地として見た場合は、大手門、姫山等が駐車場利用されることが想定され、先の評価は該当しないと考える。	1	ご意見を反映し、後述の「3 修正した項目」のとおり修正します。
37		大手門駐車場のアクセスは良いが、代替と考えられる本町臨時駐車場は、城南線(幅員 22m)からの市道が進入路となり、道幅も狭く(幅員 6m)、神姫バス車庫への出入りもあって交通混雑の恐れが大きく、利便性、駐車場機能は低下する。	1	
38		県営本町住宅跡地は、城南線からの市道が進入路となり、国道2号線から直接出入りができずやや不便との記述は、駐車場として見た場合であり、候補地として見た場合は、大手門駐車場の利用が想定され、先の評価は該当しない。姫路駅から徒歩で鷗門、埋門を通って行くことも可能で、アクセスしにくいとは言い難いと考える。	1	ご意見の一部を反映し、後述の「3 修正した項目」のとおり修正します。

39	(3) 施設候補地の評価	世界文化遺産姫路城に相応しい姫路城ミュージアム建設に十分な敷地、中曲輪周辺への回遊性の向上等を含めた波及効果、姫路城を活かした城下町のまちづくりへの寄与、来訪者の大半を占める乗用車・観光バスのための駐車場の利便性の確保が評価項目として考えられる。	1	敷地面積、回遊性、来訪者の利便性、視認性、主要観光動線、姫路城の眺望等から評価しています。
40		大手門駐車場はデメリットとして、駐車場が約半分となり、代替となる本町臨時駐車場は姫路城や好古園への利便性が低下し、城南線からの狭い進入路や神姫バス車庫の出入りによる交通渋滞の恐れ、駐車場への誘導も複雑になる。また、北東方向には史跡・遺構は少なく、中濠、千姫の小径、船場川、龍野町、船場本徳寺等の遺構・史跡が多く集まる南西方向への回遊性を高め、西二階町、船場・城西地区等の賑わいを創出し、城下町のまちづくりへの寄与が重要である。	1	大手門駐車場の収容台数の減少分は、城見台臨時駐車場や本町臨時駐車場の常設化により対応したいと考えています。また、ビジターセンターとしての機能からは、来訪者が姫路城に向かう動線上に位置しており、進入路の拡幅等の工夫も可能であると考えています。なお、来訪者の回遊行動の誘発と滞在時間の延長に繋げるため、ビジターセンター機能も活かした多様な回遊性の創出について検討していきたいと考えています。
41		姫路警察署跡地の幹線道路からのアクセスの良さは、本格的な駐車場を作る計画ではなく、評価とは関係ない。敷地がやや狭い点は、総合的な整備や緑地整備等に相当の制約が生じ、拡張の余地もないため評価を下げる。	1	ご意見の一部を反映し、後述の「3 修正した項目」とおり修正します。
42		県営本町住宅跡地は、神姫バス車庫敷地の購入により自由度が増し、埋門、車門からも歩いてアクセスでき、中濠、千姫の小径、船場本徳寺など南西方向への回遊性を高め、西二階町、船場・城西地区の賑わいの創出や城下町のまちづくりに寄与できる。大天守等文化観光施設との距離は、集客力ある施設とすればデメリットと言うほどの距離ではなく、新たな観光動線を作り出すことは、姫路城下の観光スポットを広げることにもなる。幹線道路からのアクセスや接道条件が良くないとの指摘は、駐車場ではないので問題ない。利用者の誘導は案内板で可能であり、一体的なイメージは和風の施設を建設すれば、姫路城と調和した景観となる。北東方向の回遊性については、中曲輪とまちづくり全体の問題として検討すればよく、以上のことから評価を上げる。	1	ご意見の一部を反映し、後述の「3 修正した項目」とおり修正します。

43		多くの利用者が見込まれる大手門駐車場への建設は、回遊性を更に放棄するに等しい。姫路警察署跡地は狭隘ではあるものの、回遊性を高めるには観光施設は点在させるべきであり、県立歴史博物館程度の施設であれば十分建設可能である。今後、周辺施設の移転等による膨大な敷地を見込むことができ、保管庫の増築等にも有効な手段と成り得ることから、姫路警察署跡地が最適である。	1	姫路警察署跡地は北東方向への回遊性に優れるものの、他の候補地と比べるとやや狭いため、総合的な施設整備や緑地等周辺整備に制約がでる可能性があります。なお、大手門駐車場は内曲輪への玄関口である桜門橋等の主要観光動線にも近く、多くの利用者が見込まれ、ビジターセンターとしての機能も十分に発揮できるものと考えています。
44	(4) 施設配置の考え方	播州屋台会館(仮称)の内設・併設を求める立場から、屋台・檀尻の実物・実演展示等を図るには、最も敷地面積の大きい大手門駐車場が最適である。	15	
45		大手門駐車場が最適であるが、姫路警察署跡地の活用も考えられる。	1	姫路城ミュージアムには、ビジターセンターとしての機能も持たせようと考えています。大手門駐車場は、内曲輪への玄関口である桜門橋や好古園、家老屋敷跡公園等に近接し、多くの利用者が見込まれます。また、半減する大手門駐車場を補完するため、常設化する本町臨時駐車場からは、来訪者が姫路城に向かう動線上に位置します。なお、十分な敷地面積を確保できることから、緑地の整備、街路の遺構展示等の工夫も可能であると考えています。
46		姫路城見学の動線から、大手門駐車場が最適である。	2	
47		大手門や好古園に近く、観光客がより長時間滞在することができることから、大手門駐車場が最適である。駐車場は大手前公園地下駐車場の利用を促進し、姫路警察署跡地や県営本町住宅跡地の活用で賄える。	2	
48		拡張の余地と配置の自由度、南西方向への回遊性と賑わい作り、来訪者の利便性、駐車場の誘導等から、県営本町住宅跡地が最適である。その場合、城見台臨時駐車場を常設するほか再編レベルの検討は不要となる。	1	
49		どの候補地になっても、回遊性機能の強化が、成功の可否に重要なポイントと考える。	1	
			1	

9 施設配置上の課題への対応

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
50	(1)「回遊性を高める方策の検討」への対応	中曲輪及び周辺の遺構・史跡の整備や休憩施設を設ける等、回遊路は来訪者が楽しく、気軽に行けることが重要である。特に、遺構・史跡の集中は姫路城の南西方向にあるが、北東方向についても調査・検討すればよい。	1	姫路城の南側と北東側を結ぶ回遊動線(特に、姫路城の東側ルート)の強化に資するため、遺構表示や休憩施設の設置など、回遊基盤の充実を図りたいと考えています。

51	(2)「駐車場再編の検討」への対応	大手門駐車場は、地下への建設が見込めない以上、高さ制限を有する地上部分に収蔵庫を建設するほか余地のないことに留意すべきである。	1	今後、増えることが想定される収蔵品の保管場所を含め、設備や施設エリアの規模等については、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、検討してまいります。
52		大手門駐車場に建設の場合、減少台数を本町駐車場に求めることになるが、県営本町住宅跡地に建設すれば、大手門駐車場は現状維持となる。仮に、大手門が観光バス優先となれば、本町駐車場に普通自動車が増えることが予測され、周辺5か所の常設駐車場のうち、姫路城や好古園への来訪者は、特にアクセスがよい大手門駐車場を利用する傾向が強く、誘導の観点からも、大手門駐車場周辺に新規の駐車場を確保することが重要となる。また、神姫バスの車庫は、駐車場用地や姫路城ミュージアムの拡張用地として有力である。	1	現在、中曲輪には常設5か所、臨時1か所の公営駐車場があり、1,860台の普通自動車と39台の観光バスが収容できます。駐車需要の推計では、最大収容台数を普通車1,830台、観光バス60台と見込んでいます。過去のデータ分析から、平日には十分余裕があり、休日(ゴールデンウィーク等繁忙期を除く)においても、駐車需要を満たすことができると予測しています。また、県営本町住宅跡地は、公園的修景整備も視野に常設駐車場として整備してまいります。

10 施設整備の方針

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
53	(1) 概要	県営本町住宅跡地への建設が適切であり、大手門駐車場は再整備不要となる。城見台駐車場を整備し、姫路城を活かしたまちづくりの観点から、中曲輪とその周辺、特に埋門跡、中濠、千姫の小径、船場本徳寺等の遺構・史跡が集まる南西方向への回遊性を高め、西二階町、船場・城西地区の賑わいを創出することが重要である。また、研究部門の中核となる城郭研究室の機能強化も望まれる。	1	姫路城ミュージアムには、城郭博物館機能や郷土歴史博物館機能とともに、ビジターセンターとしての機能を持たせようと考えています。大手門駐車場は、内曲輪への玄関口である桜門橋や好古園、家老屋敷跡公園等に近接した利便性とともに、常設化する本町臨時駐車場からは、来訪者が姫路城に向かう動線上に位置しています。また、来訪者の回遊行動の誘発と滞在時間の延長に繋げるため、ビジターセンター機能も活かした多様な回遊性の創出について検討してまいります。なお、城見台臨時駐車場は常設化し、城郭研究室は近世城郭の専門的調査・研究機能を強化したいと考えています。
54	(2) 姫路城ミュージアムの整備(新設)	姫路城ミュージアムの整備は、文化観光の振興や賑わい創出に繋がる都市機能の充実に大きく寄与し、意義あるものであり、建設が望まれる。	10	姫路城は、世界的に見ても数少ない高速鉄道駅の至近距離にある世界遺産であり、本市の都市づくりに大きな可能性を秘めるものと認識しています。人口減少社会の中にあって、文化的観光資源を活かし、国内外から多くの来訪者を迎えて交流人口の拡大を図るといふ、本市独自の個性を活かし、魅力ある国際観光・コンベンション都市づくりを進めていきたいと考えています。

55		主たるテーマは姫路城の本質的価値の体感・体験とあるが、郷土の歴史的資料や伝統的文化資料等による展示内容の充実を図れば、なお一層有意義に機能するものとする。	1	城郭に関連する展示・学習機能に加え、姫路の歴史や文化など、郷土史に関連する展示・学習機能を併せ持つ施設にしたいと考えています。
56		大手門を移築してシンボルとし、新たに江戸末期の大手門を復元・再建したり、昭和の大修理の大柱の展示を姫路城ミュージアムや中曲輪内に移設してはどうか。	1	「H23.3 特別史跡整備基本計画」において、内曲輪の遺構や建造物の立体的な復元には、現存する文献や絵図等では不十分であり、継続的な時代考証で真実性を明らかにする必要があること、専門的な分析・調査には相当の期間を要し、地道な発掘調査や史料研究により、真実性を保持した「往時の姿」の再現に努めることとしており、今後も、真実性を確保した復元等に向けて、調査研究を進めてまいります。
57		大手門駐車場に建設する場合は、江戸時代の町割りを生かし、好古園や家老屋敷跡公園と一体性を持たせ、江戸時代城下のイメージを再現すれば、素晴らしいエリアになる。建物群で構成する形の検討を望む。	1	姫路城ミュージアムは、「姫路城の本質的価値を高め・学び・伝える」ことを主たる施設機能として、城郭関連や郷土史に関する展示・学習機能と来訪者への案内・支援等の情報発信機能を併せ持つ施設にしたいと考えています。具体的な展示内容、展示方法、意匠デザイン等につきましては、当素案で示した方針に基づきながら、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、検討してまいります。
58		金沢21世紀美術館のように、高く評価される建物を望む。	1	
59		町名の由来の鍛冶町、呉服町、同心町、佃町等の店や工房を再建してはどうか。	1	
60		時代劇のオープンセットのような町並みを再現し、タイムスリップした錯覚を与え、最高の撮影ポイントとし、見て、食べて、買い物して、歩いて、楽しんでもらえる町の再現が観光都市として必要である。	1	
61		城下町姫路にふさわしい江戸時代風の民家群(撮影もできるのが理想的)を再建し、普段は喫茶店や休憩所として利用してはどうか。	1	

62		県営本町住宅跡地に、城郭博物館・郷土歴史博物館・ビジターセンター・公園機能等を備えた複合施設を建設し、城郭のことなら何でも分かる博物館として差別化し、集客を見込む。年代に応じて楽しめ、小学生以上は館内で学習、幼児は保護者と外で遊ぶことができるなど、公園機能を持たせる。姫路城の歴史・文化と郷土史の双方から総合的に学べ、豊臣時代やそれ以前の姫路城を解説するなど、奥深い歴史を学べる施設とする。日本城郭研究センターの地元博物館としての機能を備え、ゆかりの品の購入や遺構の計画的発掘により、所蔵品を積極的に収集・展示・紹介すべきである。	1	前頁に記載のとおり
63	(3) 日本城郭研究センターの機能強化	日本城郭研究センターの現状は、姫路城に関する調査研究に留まっていることから、学芸員を増員し、城郭に関する全国的な調査・研究・教育施設として中心的役割を果たせるよう機能強化を図るべきである。	1	日本城郭研究センターは、城内図書館の有する城関連図書や資料を活用した近世城郭の専門的調査・研究機能を強化したいと考えています。また、現在収蔵している展示可能な資料を姫路城ミュージアムで広く来訪者に展示するなど、機能分担についても検討してまいります。なお、組織体制についても、併せて研究してまいります。
64		城郭研究室を発展的に解消し、空白となった日本城郭研究センターを資料庫として活用すべきである。	1	
65		公文書館機能を持たせ、城内図書館の古文書コーナー、橋本文庫(「姫路城史」著者に由来)資料群等の活用・保存を移管し、集客力に乏しい埋蔵文化財センターの統合・部門化も検討すべきである。姫路史関係資料の収集に努め、姫路地域に関するほとんどの資料が閲覧できることを望む。	1	
66	(4) 回遊性機能の強化	施設を繋ぐ回遊性機能の充実がないと、客足が遠のく要因となることから、具体化の際にはよく分析を行い、市民に意見を聞くなど、再度チェックすることを望む。	1	多様な観点から回遊性の強化について検討してまいります。
67		中曲輪の施設と西側の市の橋門外など、古い町屋と連携し、回遊性を高めてはどうかと思う。	1	回遊性の向上には、歴史的資源なども活用し、テーマ性や学習プログラムを持った回遊ルートの開発、中心市街地の施設店舗、文化施設やまちづくり団体との連携による城周辺への波及効果、ビューポイント案内やガイドの多言語化、休憩施設の整備などが必要であると考えています。新たに整備しようとする姫路城ミュージアムのビジターセンターとしての機能も活かし、来訪者の回遊行動の誘発と滞在時間の延長に繋げていきたいと考えています。
68		回遊性のテーマやまちづくり団体との連携、ビューポイントやガイド案内、休憩施設等の整備がポイントとなる。大手門駐車場に建設するなら、本町駐車場と連携し、近くに休憩所、船場・城西・西国街道附近の景観、古民家建物の整備を図る。北東の回遊性が弱くなるので、寺院通りに新たな物語を作	1	

		り、外堀廻りに観光客を呼び寄せ、和洋の甘味処等の休憩所を設け、野里街道への導入を考察してはどうか。		
69		回遊路の遺構・史跡の整備を図り、来訪者に興味を持たせることも必要である。遺構・史跡が多く残る南西方向への回遊性向上を図り、城西・城南地区の賑わいを創出し、城下町のまちづくりに寄与させる。また、北東方向への回遊基盤の充実には、どのようなテーマを持った回遊にするか整理する必要がある。埋門の復元、南部中濠の一部復元等、遺構・史跡の復元整備に取り組み、城下町の保存・復元・活性化は地元団体と官民一体で行い、休憩施設は、景観と調和した和風施設の検討が望まれる。	1	前頁に記載のとおり
70		交通アクセスの良さと整備され過ぎた駐車場が、回遊性低下の最も大きな要因と推察する。市之橋門や中堀の復元、好古園の拡幅等を理由に、大手前線を一部廃止し、閉鎖性の高い空間を作り出すことが解決の第一歩である。将来的には、国道2号線や十二所前線の移転を模索し、旧姫路城郭の内・中・外濠の完全復旧と船場・野里地区整備に伴う世界遺産指定地区拡大をも目指した回遊性の強化を望む。	1	
71		県立歴史博物館と連携するには、来訪者が双方に行きやすい歩行者道路の整備が必要である。姫路城と県立歴史博物館や美術館、城の北駐車場を結ぶ通路には案内表示が少なく、舗装も悪く通りにくいので、車いすやベビーカーの来訪者にも歩きやすい歩行者道路の整備を望む。	1	ご意見を反映し、後述「3 修正した項目」のとおり修正します。
72		観光バスを利用する来訪者の動線等から、大手門駐車場は有力な候補地の1つに考えられるが、第2期中心市街地活性化基本計画(以下、「中活計画」という。)の観点からは、中心市街地の商業集積地である商店街への回遊動線が欠落している。また、北東方向への回遊性を創出するため、新たな休憩施設等を設置する方針を掲げているが、中活計画のエリア外で、支援メニューも適用除外となり、財政的メリットも受けることができない。季節、気温、天候等に左右されやすい事業	1	中心市街地の施設店舗との連携を含め、多様な回遊性の創出を図りたいと考えています。また、休憩施設は、姫路城の南側と北東側とを結ぶ回遊動線(特に、姫路城の東側ルート)の強化に資するよう、東部中堀から喜斎門を通り城内をめぐる動線上にあることや、美術館・城内図書館・日本城郭研究センター・県立歴史博物館等の文化施設が集中する場所であること、緑が多く、姫路城を望む絶好の景観ポイントでもあること等を勘案し、美術館周辺を候補地に整備を検討したいと考えています。

		は、ビジネスモデルとして成立しにくい側面もある。		
73		城内図書館に併設するカフェを市民や学生が気軽に利用できる営業形態とし、価格、メニュー、分煙等に配慮して従来の図書館ユーザー以外の利用者が訪れるきっかけ作りを行ってはどうかと考える。(外資系又は姫路独自のカフェなど)	1	前頁に記載のとおり
74		イーグレひめじは、テナントの入居率が低く、上層階には市の事務所やホールが入り、観光客には「姫路らしさ」を感じる魅力ある施設とは言い難い。市の施設を市民会館に移転するなど、当施設をリニューアルし、飲食や物販機能を併設した姫路城ミュージアムを開設する方法も考えられる。建設コストが抑えられる上、姫路城からの立地も良く、中心商店街北側エリアの入口でもあることから、回遊性を高めるマグネット機能としても効果的である。中活エリア内に立地し、様々な支援メニューや財政的メリットを受けることもできるため、既存施設の活用も念頭に置いた検討を望む。	1	イーグレひめじは、姫路駅前から商店街や城周辺施設への動線上に位置しており、市民が多様な芸術や文化にふれあい、市民の主体的な活動が展開される施設とするため、温浴施設跡地等を有効活用するとともに、既存施設の再配置など、効果的な施設整備について検討したいと考えています。具体的には、現在、市民の発表の場として極めて需要の高い市民プラザにおける市民ギャラリーを拡充するとともに、美術館の収蔵品に常に親しめるよう、常設展示スペースの設置を検討したいと考えています。これらの施設整備により、中心市街地のにぎわいの創出と活力の増大、そして人々が集い、回遊するまちづくりに寄与したいと考えています。
75		新たな企業を募り、イーグレひめじの鉱泉を再活用し、(簡易)宿泊施設を兼ねた施設に再利用するなど、中曲輪内の既存施設の有効利用の検討を望む。	1	
76		イーグレひめじは、姫路城の全容を見渡せる一等地にあるが活かされていない。城周辺を歩き、天守閣に登り、イーグレから俯瞰すれば、改めて縄張りや全容の素晴らしさを実感してもらえる。3・4階と屋上は観光客を引き入れるスペースとし、屋上はオープンカフェとしてオールシーズン営業するなど、紆余曲折の末にできたイーグレひめじの再生を望む。	1	
77	(5) 公営駐車場の再編・整備	城見台臨時駐車場の常設化は、休日の渋滞の原因である姫山駐車場の混雑緩和対策となるが、城見台公園前の交差点の東西方向の車線に右折レーンが無い場合、日常から渋滞が発生している。城見台臨時駐車場が常設化となれば、右折車両の渋滞に加え、入庫車両による渋滞が予想されるため、当該交差点には右折レーンを設置し、来訪者や市民にとって安全な空間となるよう整備を望む。	1	ご意見を反映し、後述「3 修正した項目」のとおり修正します。

78		大型車両は本町駐車場、普通自動車は大手門駐車場への駐車が理想だが、不足分は地下化も考察すべきである。	1	特別史跡指定区域のため、地下遺構の保存と規制のため、地下化は困難なものとなっています。
79		観光客の増加と滞在時間延長が見込まれる中、最も利便性の高い大手門駐車場の半減は、利便性、交通渋滞、誘導面で問題がある。城見台を常設化、本町臨時駐車場は姫路城ミュージアムの敷地とし、不足分は神姫バス車庫の買収など近隣での確保を検討すべきである。観光バスは、乗降場と駐車場を分離し、空き情報を勘案して城見台や姫山等、近隣の公営駐車場に駐車させ、来訪者の利便性と周辺駐車場の活用の両立を図ってはどうかと考える。	1	来訪者の利便性やビジターセンター機能の動線等から、大手門駐車場を姫路城ミュージアムの候補地としたものであり、施設エリア以外は駐車場に再整備したいと考えています。収容台数の減少分は、城見台と本町臨時駐車場の常設化を検討してまいります。また、大手門駐車場は、十分な敷地面積を確保できることから、観光バスの乗降場と駐車場の分離も可能であると考えます。
80		日帰り旅行者増加の最大要因である観光バスは、公営駐車場の全面的縮小が推奨され、機能強化は「安・近・短」型観光客の増加に拍車をかけ、観光施策最大の失策である。先進国の世界遺産の多くは、歴史的地区への車両進入を制限し、シャトルバス等の整備を進めており、本市では、市音楽演劇練習場や京口団地周辺に発着所を設けるとともに、神姫バス本町車庫の移転で実現が可能となる。また、多くの場所で返借できる観光用自転車や駐輪場の設置も重要である。	1	大手門駐車場には 39 台の観光バスの収容区画があり、ピークの時間帯には普通自動車の区画を減らし、20 台程度増やす等、柔軟な対応を行っており、一定の需要が見込まれる以上、駐車区画の縮小は考えておりません。また、歴史的地区への車両進入の制限は、交通事情や市民の日常生活に与える影響を考慮した慎重な対応が必要だと考えています。なお、観光用自転車については、コミュニティサイクル等の活用について検討していきたいと考えています。
81		大手門駐車場は全面的に廃止し、好古園の拡張に充当すれば、日本三園にも負けずとも劣らない屈指の規模を持つ庭園整備が可能となる。	1	大手門駐車場のうち、姫路城ミュージアムエリア以外は、普通自動車と観光バスの駐車場に再整備したいと考えています。

11 その他

N0	項目	提出された市民意見(要旨)	件数	市の考え方
82		城には兵糧攻めに備えて、松竹梅が植えられていることが多かったと聞く。県営本町住宅跡や自動車学校敷地を梅林として整備し、閑散期の集客にも寄与させ、市内の学生に植栽してもらうことで、費用の抑制と郷土愛を育成し、綾部山梅林とのコラボで播磨を梅の名所としてはどうかと考える。	1	県営本町住宅跡地は、公園的修景整備も視野に常設駐車場として整備してまいります。また、「H23.3 特別史跡整備基本計画」において、自動車学校については移転を促進し、遺構表示を取り入れた公園整備を図ることとしています。

83	仮称とはいえ、「世界遺産・姫路城ミュージアム」と名称まで姫路城に頼り、具体案の無いことを横文字で誤魔化したようで重みを感じない。既存の観光資源の利用は大事なことであるが、利用と依存とは別のものである。	1	姫路城ミュージアムは、「姫路城の本質的価値を高め・学び・伝える」ことを主たる施設機能としていることから、当仮称としたものです。今後も引き続き、地域資源を有効に活用し、姫路城のグランドオープンという節目を捉え、「姫路城プラス 1(ワン)」の観光施策を展開するなど、国際観光コンベンション都市に向けた積極的な取り組みを推進し、「しごと」を増やし、「まち」の活力を高め、ふるさとに誇りを持てる感動できる「まち」を創りたいと考えています。
84	姫路城だけに胡坐をかかず、何年か先にも多くの観光客が訪れる魅力ある観光都市姫路となり、宿泊してもらえるような町になることを望む。	1	
85	国内外から訪れる観光客に満足感を与えられる観光第一の施策とすべきであり、イーグレひめじ、美術館、自動車学校、白鷺小学校等、姫路城に付帯する観光資源になり得ないものは順次、市民が利用しやすい場所に移転すべきである。	1	「H23.3 特別史跡整備基本計画」において、既存施設は機能維持が困難となる時期を見据え、特別史跡の指定区域外への移転又は撤去等について調整及び促進に努めることとしておりますが、対応には長期的な検討が必要だと考えています。
86	城内図書館については、蔵書の全開架、分類・検索の工夫、駐車場の無料化、市民以外への貸し出し、周辺公共施設が備える姫路城や播磨地域の歴史、文学、美術等書籍の一括管理、開館時間の延長など、図書館改革を望む。	1	城内図書館については、城郭関連書籍や史料等の充実を図るとともに、本市の基幹図書館として充実を図りたいと考えています。
87	城内図書館を含む姫路城跡中曲輪は、単に観光資源と位置付けるのではなく、市民の利用価値を高め、姫路に住んで良かったと思える姫路城を中心とした地域づくりをして欲しい。	1	姫路城や姫路城周辺の地域は、「都市としての姫路を象徴する場所」「歴史・文化との共生を体現する場所」「今後の姫路のまちづくりを方向づける場所」であり、姫路という都市全体の“活力と格”の向上を図る“力と可能性”を秘めた特別な場所だと考えています。当素案に示した目的に沿いながら、次の段階となる基本構想や基本計画の策定等を通して、具現化してまいります。
88	表現等を含め、市民には非常に分かりにくい文書であり、工夫が必要である。	1	今後の参考とし、分かりやすい文章作成に努めます。
89	具体的な計画作成には、多くの人の意見を聞いて欲しい。	1	今後、当方針を具現化する中で、市民意見の募集を改めて実施したいと考えており、広報ひめじやホームページで適時情報提供を行うなど、より多くの意見聴取が図られるよう努めてまいります。

3 修正した項目

修正番号	意見番号	該当頁	修正前	修正後
1	36	25	・幹線道路(城南線)沿いで <u>自動車アクセス</u> に優れている	・幹線道路(城南線)沿いで <u>視認性</u> に優れている
2	36	26	・幹線道路(城南線と城東線)の交差点にあり <u>自動車アクセス</u> に優れている	・幹線道路(城南線と城東線)の交差点にあり、 <u>視認性</u> に優れている
3	37 38	27	・城南線からの市道が主な進入路となっており、国道2号からは直接出入りができずやや不便である ・姫路駅から徒歩圏内にあるが、 <u>自動車ではアクセスしにくい</u>	・城南線及び国道2号線の鷗門からの市道が主な進入路となっている ・姫路駅から徒歩圏内にあるが、 <u>姫路城への玄関口である桜門橋からはやや離れている</u>
4	41	28	・幹線道路からの <u>アクセス</u> に優れている。	・幹線道路からの <u>視認性</u> に優れている。 <u>(大手門駐車場のメリットの欄にも同内容を追記)</u>
5	42	28	・主要観光動線からは少し外れ、 <u>幹線道路からのアクセスが不便であり、接道条件も良くないため、周囲からの視認性が低く利用者の誘導が非常に難しい。</u>	・主要観光動線からは少し外れ、周囲からの視認性が低く利用者の誘導が非常に難しい。
6	71	39	オ 安全・快適な歩行空間の確保に留意する。	<u>回遊ルートの歩道改良工事を図るなど、安全・快適な歩行空間の確保に留意する。</u>
7	77	40	② <u>本町臨時駐車場の整備</u> に当たっては、南北市道(城南 25 号線)の改良など関係施設の整備を検討する。	② <u>臨時駐車場の常設化</u> に当たっては、 <u>城見台公園前交差点</u> や南北市道(城南 25 号線)の改良など関係施設の整備を検討する。